



報道関係各位

2025.10
嵯峨嵐山文華館



企画展：絵と書で楽しむ百人一首の世界

《百人一首画帖》など初公開！百人一首の魅力に触れる企画展

百人一首は、かるた遊びや国語の授業を通して、広く親しまれてきました。その起源は約800年前の鎌倉時代にさかのぼり、藤原定家（ふじわらのていか／1162～1241）が百人の歌人の秀歌を撰んだことに始まります。定家の別荘があったとされる小倉山のふもとにある当館では、このたび、**歌人の姿を描いた絵画や、百人一首をはじめとする和歌をしたためた書を展示し、絵と書の双方から百人一首の魅力を紹介する企画展を開催します。**

江戸時代中期に制作されたと考えられる**初公開の《百人一首画帖》**は、歌仙たちの表情を彩り豊かに描き出した秀作です。また、長谷川宗圓（はせがわそうえん）の《百人一首手鑑》や清原雪信（きよはらゆきのぶ）の《百人一首画帖》など、歌人を描いた作品も数多く展示しております。さらに、藤原定家直筆と伝わる《小倉色紙 朝ほらけ》や、本阿弥光悦（ほんあみこうえつ／1558～1637）の《古今集和歌巻》など、百人一首に加え『古今和歌集』など和歌をしたためた書の名品、円山応挙（まるやまおうきょ／1733～1795）《富士・吉野・龍田》や尾形乾山（おがたけんざん／1663～1743）《吉野山図》のように、一つの画面に和歌とそれにちなんだ風景を描いた作品も展示します。

また、2021年から当館を会場に開催している恒例の競技かるた大会「ちはやふる小倉山杯」は、今年で7回目を迎え、本展の会期中に観覧いただけます。展覧会と競技かるたの両方を通じて、百人一首の魅力により一層体感できる機会となっております。

会期：2026年1月31日（土）～4月12日（日）

【主催】嵯峨嵐山文華館
【後援】京都府 京都市 京都市教育委員会、京都商工会議所
【会場】嵯峨嵐山文華館

【作品点数】合計：30点
通期：12点
前期：9点
後期：9点
初出：5点

第1章 歌仙絵を楽しむ

江戸時代から近代にかけての「歌仙絵」を紹介！《百人一首画帖》も初公開

優れた歌人は、古くから「歌仙」と呼ばれてきました。『古今和歌集』の仮名序で紀貫之（きのつらゆき）が挙げた「六歌仙」や、藤原公任（ふじわらのきんとう／966～1041）がまとめた「三十六歌仙」が特によく知られています。これらの歌仙を和歌とともに描いた「歌仙絵」は、平安末期以降に広まりました。

本章では、江戸時代に制作された歌仙絵を中心に紹介します。なかでも初公開となる《百人一首画帖》は、江戸中期に描かれたと考えられ、作者は不明ですが、確かな筆致や彩色技法で描かれており、歌仙たちのいきいきとした表情や、鮮やかな彩色が魅力です。さらに、長谷川宗園の《百人一首手鑑》、清原雪信の《百人一首画帖》、尾形乾山の《三十六歌仙 伊勢》といった作品と比較することで、それぞれに見られる個性や時代ごとの美意識の違いも楽しむことができます。

近代の画家たちもまた、「歌仙」を題材に新たな解釈を試みました。伊藤小坡（いとうしょうは／1877～1968）は雅やかで聡明さを備えた小野小町を描き、安田靫彦（やすだゆきひこ／1884～1978）は優美な線描によって大伴家持を表現しました。こうした作品を通じて、歌人という題材を介し、自らの芸術を模索した近代画家たちの取り組みを感じることができます。



長谷川宗園《百人一首手鑑》持統天皇（部分）



作者不明《百人一首画帖》天智天皇・持統天皇

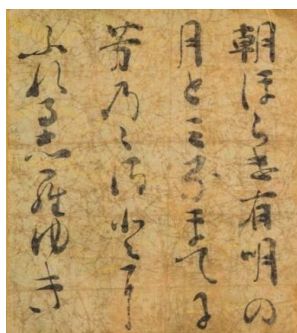


伊藤小坡《草子洗小町之図》（部分）

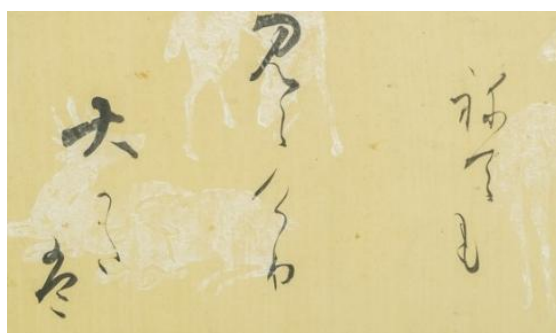
第2章 和歌と書 和歌と絵

書と絵の両面から、和歌の魅力にせまる

百人一首は藤原定家が10の勅撰集から撰んだものであり、約4分の1は『古今和歌集』に収録されています。本章前半では、和歌をしたためた書の名品を展示します。定家直筆と伝わる《小倉色紙》をはじめ、「寛永の三筆」と称された近衛信尹（このえのぶただ／1565～1614）、本阿弥光悦の書を並べてご覧いただけるまたとない機会です。さらに、当館にゆかりの深い書家・三宅相舟（みやけそうしゅう／1945～）による百人一首を記した屏風作品もあわせて展示いたします。



伝 藤原定家
《小倉色紙 朝ほらけ》



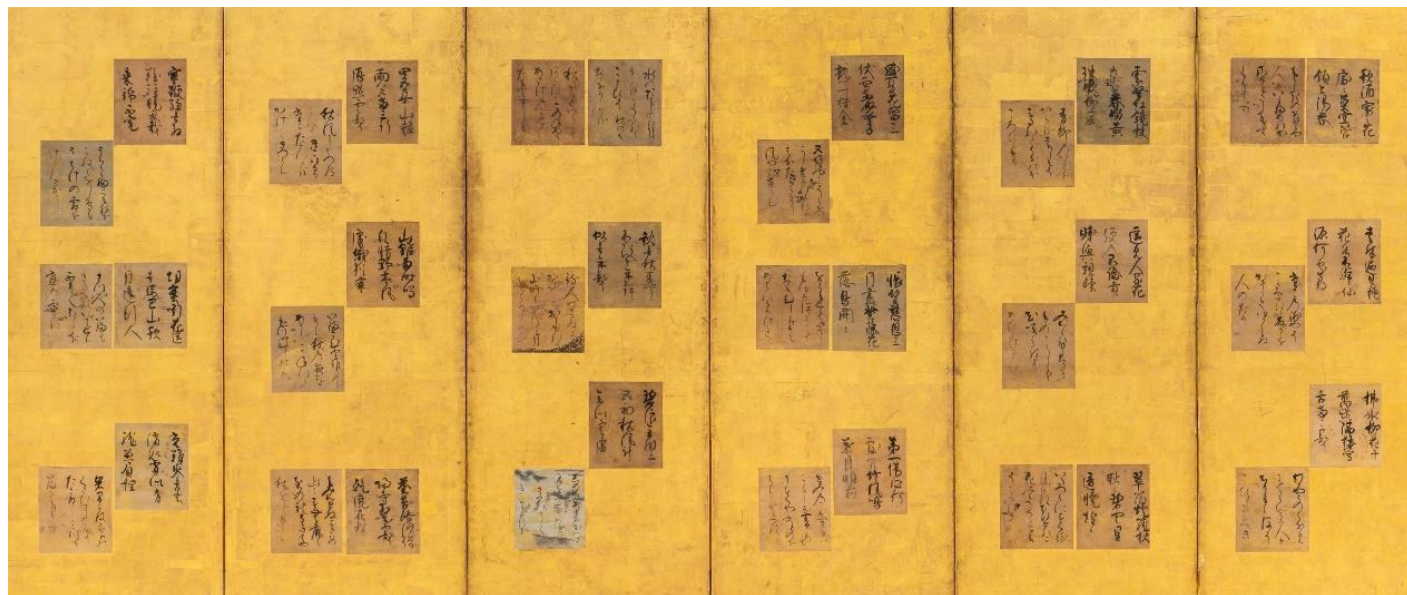
本阿弥光悦《古今集和歌巻》（部分）



松本奉時 画 園果亭義栗 賛《蛙図》（部分）

後半では、和歌と絵を組み合わせた作品をご紹介します。円山応挙の《富士・吉野・龍田》には、和歌の名家である冷泉為泰（れいぜいためやす／1736～1816）が和歌を添え、琳派の神坂雪佳（かみさかせっか／1866～1942）の《三船祭図》には国文学者の吉沢義則（よしざわよしのり／1876～1954）の歌が書き込まれています。和歌と美術の発展に貢献した名だたる人物たちの共演は必見です。

最後に紹介する《愛国百人一首画帖》は、戦時中に制作された近代ならではの作品です。和歌と絵が織りなす様々な表現を通して、時代とともに受け継がれてきた百人一首の新たな広がりをご紹介します。



近衛信尹 他《和歌・漢詩色紙貼交屏風》（右隻）

特別イベント企画

● 吉海先生講演「百人一首の歌仙絵を読む」

開催日時：3月21日（土）13:30～14:30

百人一首研究の第一人者である同志社女子大学名誉教授・吉海直人先生による、百人一首を熱く語る人気講座です。3月のテーマは「歌仙絵」。百人一首の魅力を絵画からひもときます。

※予約不要、入館料のみで聴講可能

プレス用画像一覧_1

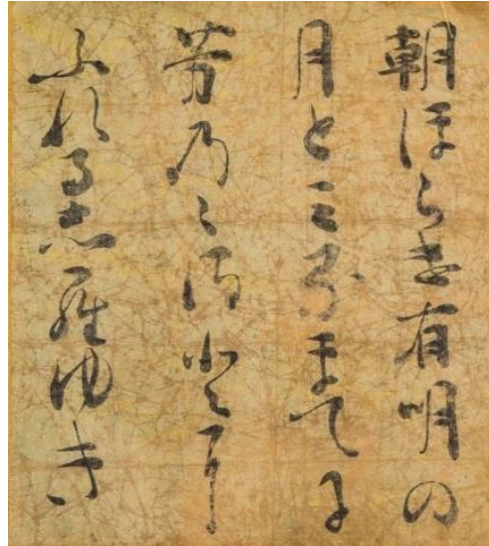
※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/hyakuninisshu2026/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



長谷川宗圓《百人一首手鑑》17世紀



伝 藤原定家《小倉色紙 朝ほらけ》13世紀



円山応挙《池水亀図》1780年



松本奉時 画 園果亭義栗 賛
《蛙図》18世紀



伊藤小坡《貝合わせの図》20世紀

伊藤小坡の作品は掲載にあたって著作権者への確認が必要です
※掲載料金はかかりません ※トリミング可能

プレス用画像一覧_2

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/hyakuninissshu2026/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



近衛信尹 他《和歌・漢詩色紙貼交屏風》16～17世紀



《百人一首画帖》紀友則／藤原興風 18世紀



《百人一首画帖》小野小町／蟬丸 18世紀



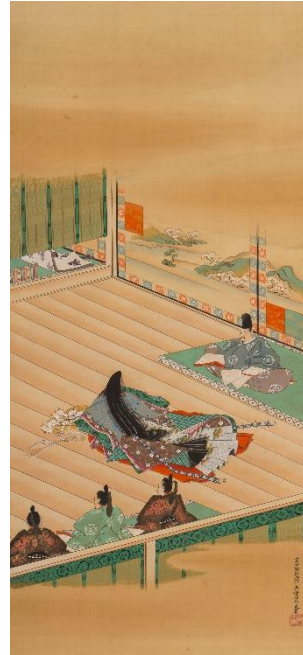
《百人一首画帖》天智天皇／持統天皇 18世紀



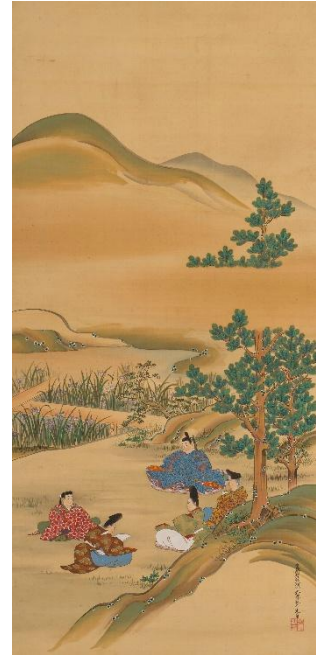
長谷川宗圓《百人一首手鑑》
中納言行平／在原業平朝臣 17世紀



左幅



中幅



右幅

藤原光貞《在原業平・大納言経信・伊勢大輔》18世紀



長谷川宗圓《百人一首手鑑》
藤原敏行朝臣／伊勢 17世紀

展覧会概要

■企画展名

■会 期

■開館時間

■休 館

■主 催

■後 援

■アクセス

■料 金

絵と書で楽しむ百人一首の世界

2026年1月31日（土）～4月12日（日）
前 期：1月31日（土）～3月2日（月）
後 期：3月4日（水）～4月12日（日）

10:00～17:00（最終入館 16:30）

2月15日（日）、2月17日（火）、3月3日（火）、3月17日（火）
※2月14日（火）は14:00で閉館

嵯峨嵐山文華館
京都府、京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所

〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11
JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分
阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分
嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分

一般・大学生	高校生	小・中学生	その他
1,000（900）円	600（500）円	400（350）円	* 障がい者と介添人1名まで各600（500）円 * 幼児無料 * （ ）内は20名以上の団体料金

<福田美術館との両館共通券>
一般・大学生：2,300円／高校生：1,300円／小中学生：750円／障がい者と介添人1名まで：各1,300円

プレスリリース／広報用画像に関するお問合せ

嵯峨嵐山文華館広報事務局（共同ピーアール内）
担当：田中、樋口
TEL：03-6264-2045 Email：samac-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

TEL：075-882-1111（嵯峨嵐山文華館事務局）
お問い合わせフォーム：<https://www.samac.jp/contact>

嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入れると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。百人一首ゆかりの小倉山を背にし、大堰川を借景として取り込む2階からの眺めは、まさに日本画の世界のようです。



1階の常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と歌の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が撰ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介します。また120畳の広々とした2階の畳ギャラリーでは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望むテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ぎいただけます。

